昔話桃太郎

山東菴京山作
香蝶樓國貞画
九編

へ13
3690
9

竹取物語九編

京山作

竹取物語九編
京山作
豊国画
治森

門へ13
號3690
巻9

水滸傳の百余回源氏ものがたりの五十四帖もをはりまでの事をそでめうりありひまをうけて作りくるめとるおりのまこねふりくるあるやうにあるべしその妙作よくよくべてはなるべしあらはしとあり作りもあるべしのびまぎらる所のふれば風味のいろいろありもろんあるかし國貞が筆のうまさ紙たるべしとと

ナトめうりそのまちとをりそもかうぐあるを編ごと毎ふもかうとまうる梅若の木工作ものつぎをれ枝葉

せまどのよあさぐふ菩のたとびでいとでつとうきあ

竹の子や
いそもの
石の中
春門人
智月尼
つぐ孫
清川
白ふとろか
やとろり
胡蝶
桜州
一江
まんけ
きうとあり
瓢水句
すゝき川
紅もみぢ
夕
さとろ
一晶
竹の子
ちよのまへ
ときはもて
又一ゑんの
牡丹ゑる
蓼太
竹の子
ゆ一田のきんぎょ
松若丸

竹取のかぐや九へんの上

▲初段

梅若まつゆ
やこけの八妙
月花やお房
お百

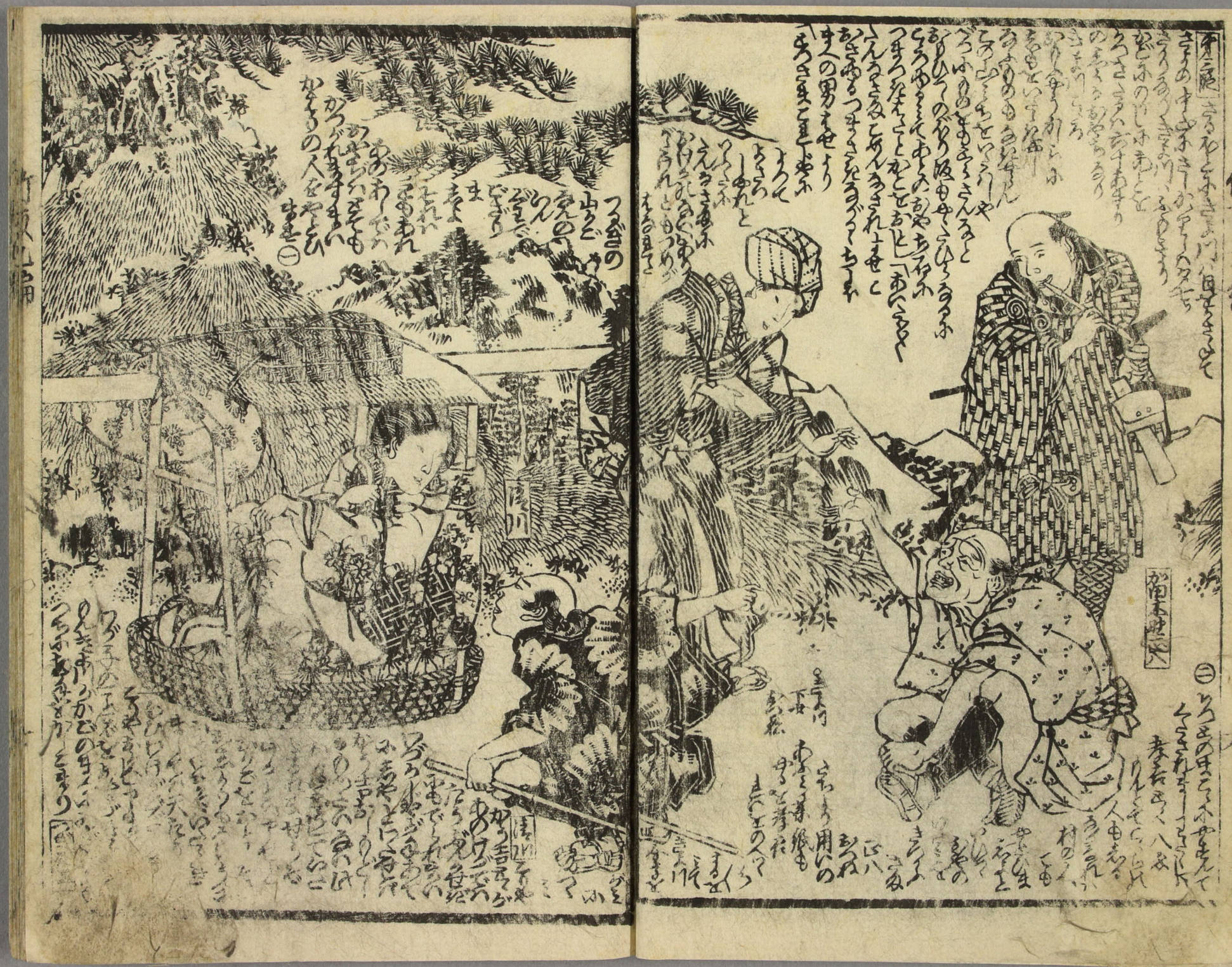
第二段

そもいさてあきこそあれ
みやこ北白川より田の
やうさまでへ四ぢの
あそこにてはるばるの
のとおらさるしつの
あうぢうあふの四ぢ
さのとをとめはるばる
うめ若とも五ろぐー
ひぐ子めもえとをつて
より田のあとくと
せんのたくまあら
れ四ぢのの
つうふつめぞう
きくせのうらぐ
けらの五ぢ井の源又も

つうね
法川

松若丸

松若丸
山田三郎
つるぎ
きよ川



下女おつる
四八
孝吉
八ぶりん
孝吉

竹とり九へん上終

京山作
國貞画

嘉永五壬子歳新鐫目錄

竹取物語 十五編十六編 山東庵京山作 一雄齋國輝画

長壁孤妖婦奇談 初編二編 樂亭西馬作 一猛齋芳虎画

外濠古跡うとう物語 初編二編 同作 同画

櫻姫傳奇紙 初編二編 同作 一猛齋芳虎画

故園再開 櫻姫傳奇紙 初編二編 同作 一猛齋芳虎画

茶屋 復讐節身鬱堂稿 初編二編 同作 一壽齋國政画

八文舎流 近松文章 門漕浦其碩正本 初編二編 同作 一雄齋國輝画

朝顔の花ざかり 五編 同作 一雄齋國輝画

東都馬喰町二丁目
絵地本 繪發問屋 永林堂 沢屋兵衛版

竹取物語九編下巻

上よりつづきのりんく

つぎの竹川へ下女

のあらまほしきをひろれ

ろくさう丸八まを

のみあつかふ

ふりてげあと

ふつき●これ

あつまどのこれ

うくさえへ下り

さろーや㊀

㊁たべぶくてびれさまり

つきーやるろもてくれ

ちやあるろあるろ日ゝれ

おまるひあつさちやへ㊂

ろくさう丸八

㊃ろくさうもだんみまる

てでもあ

まさこ

これまさと

どこのろもて

ろくさうもの

さてみがきよ川

かさとさろけ

みてまひちやあの

ひろろ

竹取物語

第四段
清川
下女あつよ

それをてくのちきさうのめやそもちあこうたのれも用いしてけくんをかこれのせてまのまでおくるべー●それから又あまうりごやこの
●のそれをこうてるのひとりまえ一あづやうでんあこうらやとあこうぐるをこうあげ
おのれらもえでこれまうそれ山ごちまもあこまをうき
●らやんやあひんぎとまこうこれまるこれまうひどいふうこまうこうぐるこ
きァくこでく
山うぐいひとうでもうこうこうこうひとおちこへのこと●こそぬけものるい女中さまとかぐをこうれのきたるあこ
正八おつもも山ごちとあひちしてこちうこけりのやこあうそ山うるをめち

きこうう正八られまうまくられてゆけこうる山ごもとものれきこうきこうれこうきこうれる
きこうのいあれうこのこうこうもべーこそたのこうすて山こちもこういこ川がかこをかぐきひこうこいたのまうひとこ正八がのこうぐきれのこうこをかこうこうけあひこうきやんこをこれ山ふうこきこく女中ふのこうこうこ正八こちこうこうこうけり

第五段

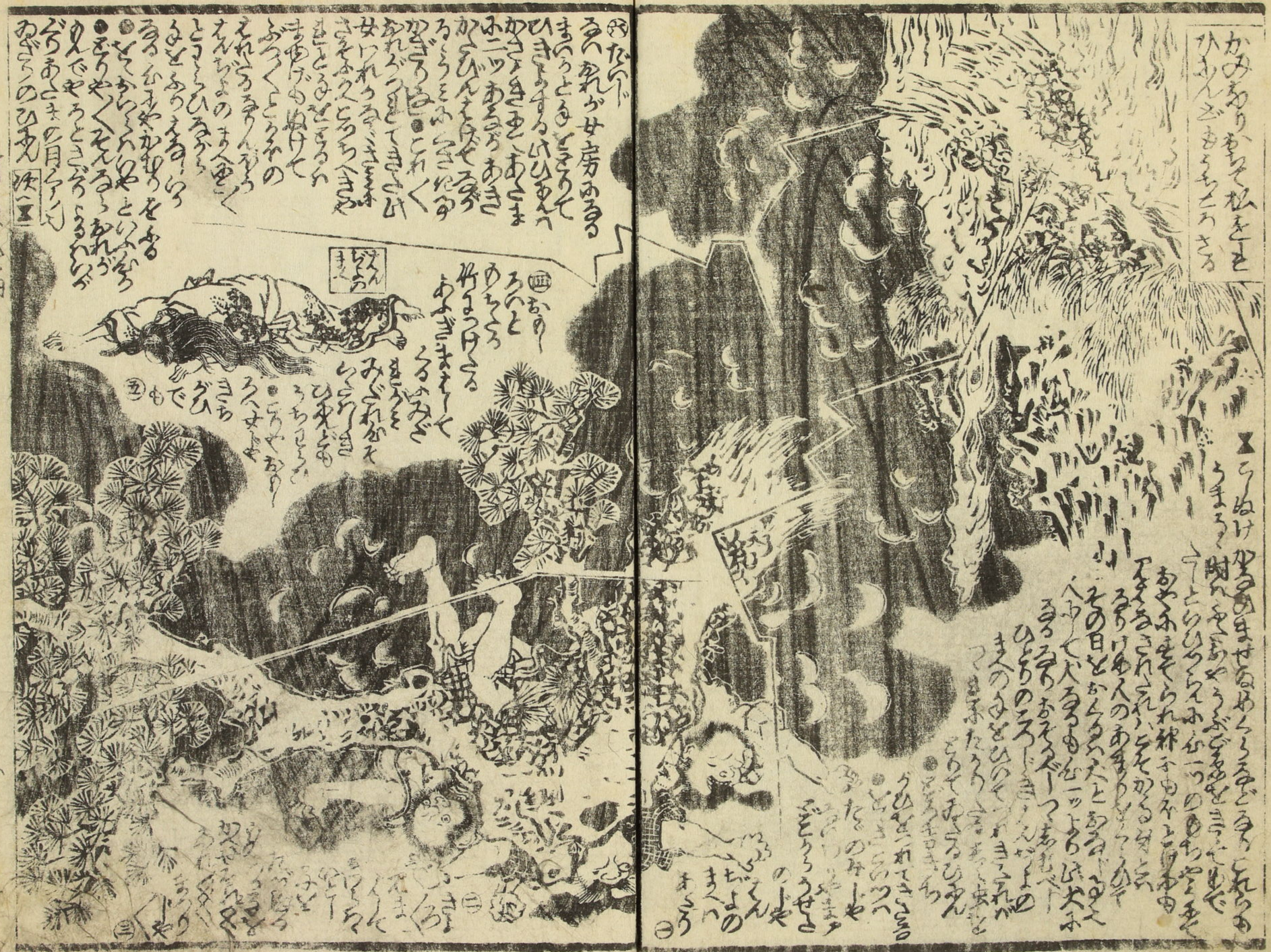
それこうこうきこうれこれ又梅こうこれ八あこ田川のをこうみこうこのこうこうこ月花やのこくこうこ正ふのくまこれあこまこけるこうある日ふくこのこうこうこんこうこんこうこを次へ

むすめかせん
月見や
女ぶおあ百

京山作
歴世女装考
當春
前編發市
つぎはぎ

○班女物狂ひ

第六段



さきのゑ
たゆれふしくるなんぢよ
のまんだんとをよりつくぐやんてゐるんとべく
ひとりやはひんとも
ゑゑゐ女人のかをゑりて
きくらしまひ〜めのるらん
だんこうさるたすけて
おやりるまされまき
ふひんるるトやとぐき
あこーとこのりんらう
きつけをのるせべくぐ
くんできこまされくるん
あよのひあやくのこあ
かりふふきりけくふは
よせ女中くとよびければ
ちんときのつくんちよのまへ
かこるちあしきちぐひるあり
ければゲんあるこもおのるくら
つよのぐこくんためてあの
さゆくるどくとふ
あるゆ中
ぎふ巻(一)
さきのゆなんセ
(二)みられこゆこんかき見ってい行く
とたづるえよそのゑつぐうちゑの
ゐくそれく仕たるかや
こふあり〜とゐ
さの
ぐり
ゑふがえ
るう
田の
北のろど
くえぢよの
まくさまで
ぐるりま
でうかゆ
赤仕ふの
あくまり
ゲけらい
さ見仕ゑ
セーヤもりのまぐく
おれ〜とたをゐをぬぎ
あるのう人ふあまて

竹取九郎
ちんぢよのまへ
上ざふまくめけり
ちんぢよへ牙とあく
れてせんりさるくゐ
ありてな
くひけふ
まどうれ
さてりたるの
島のこど
そあさう
こくんを
次文

國貞画
京山作
竹ち丸へん下七巻終
扇
柚若下ゲ
ゆちりの八数